

「東北地方視察研修」

私たち高校生にできること

～東日本大震災を通して～

**2年 高校生防災リーダー
2名**



東北地方視察研修

日時：令和4年8月8日(月)

～10日(水)泊3日

場所：宮城県気仙沼市
岩手県釜石市



視察の目的

**東日本大震災の教訓を学び
未来の大切な命を守るために今、
私たちにできることを学ぶ。**



研修箇所



①石巻市 釜石地区
大川小学校

②気仙沼市 波路上地区
気仙沼向洋高校

③釜石市 鵜住居地区
釜石東中学校・
うのすまいトモス（旧防災
センター）

④仙台市 荒浜地区
荒浜小学校

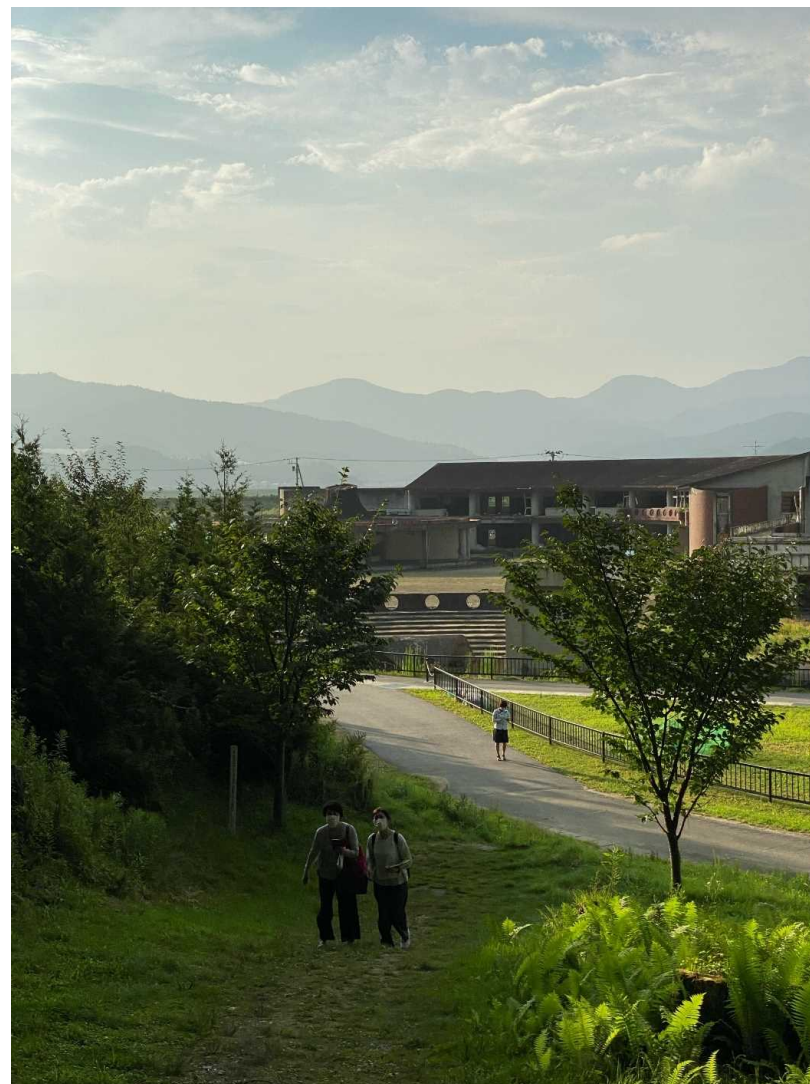
①石巻市震災遺構 大川小学校



**石巻市は、大川小学校を震災遺構として一般公開。
いのちについて考える場所となっている。**



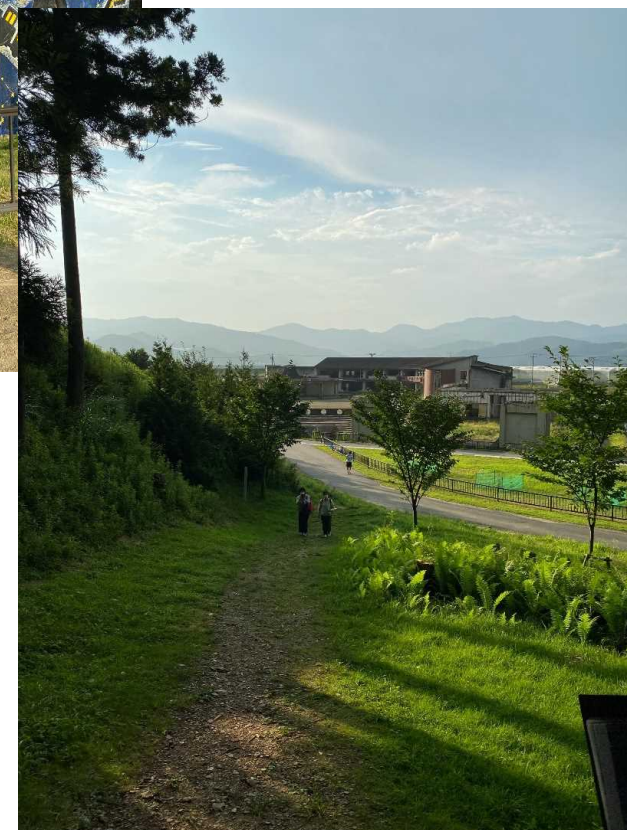
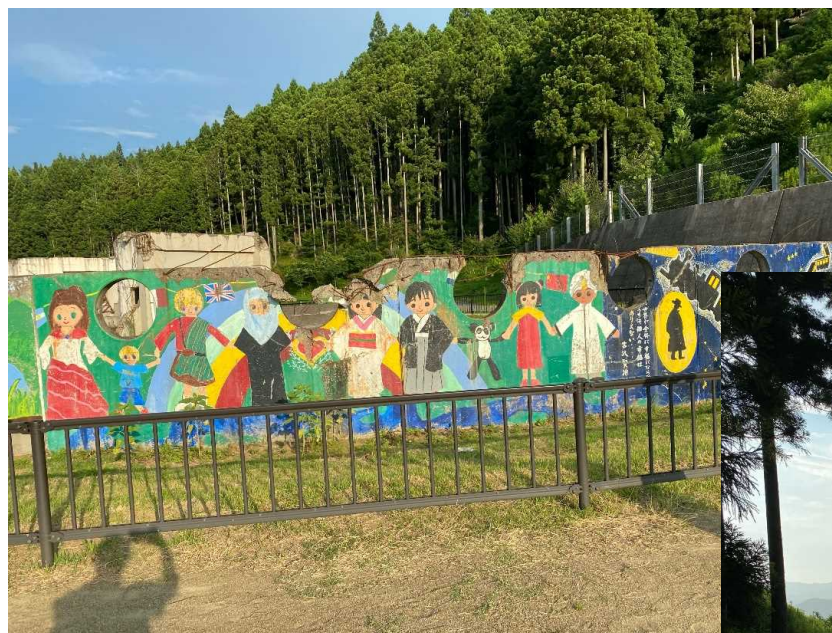
**大川小学校の裏山。
校庭からすぐ登ることが
可能。**





只野英昭さん
自分の奥さん、娘さん、祖父を震災で
犠牲に

美談だけでなく、本当にあった辛い
事実も伝えていかなければならない。



最後に祈りをささげました。

②大川震災伝承館見学

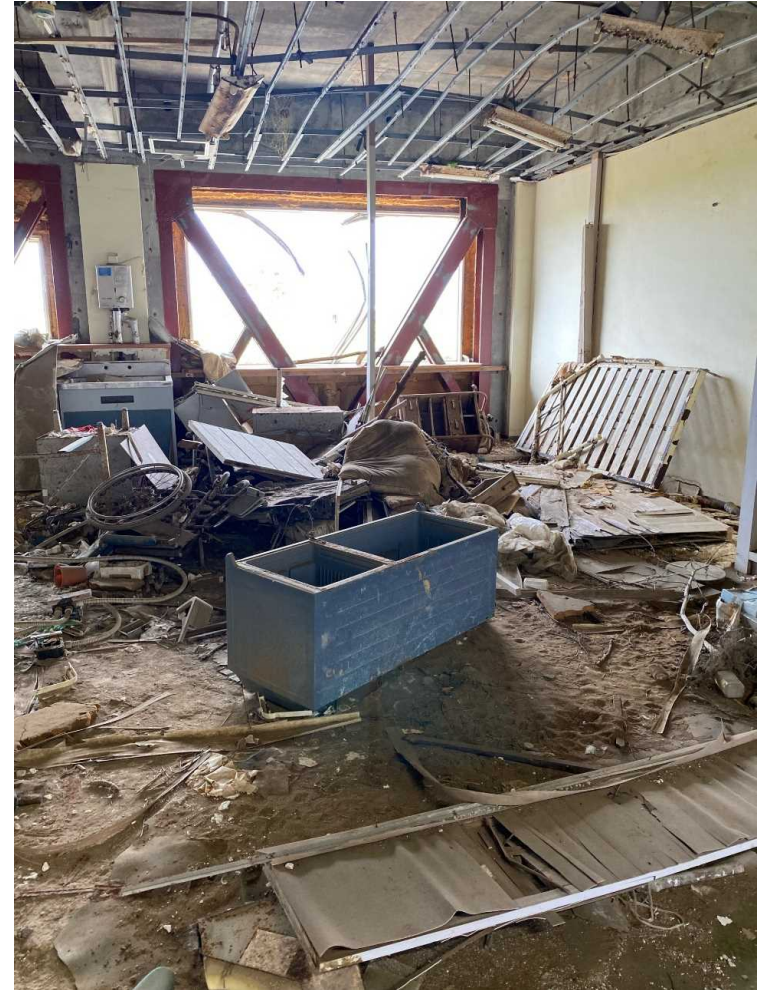


当日の様子が分かる様々な遺品
や写真を展示。

③気仙沼市 気仙沼向洋高校



**垂直避難せず、地福寺の高台に避難。
さらに標高の高い階上中学校に避難した。**





**↑ 向洋高校の体育館
津波に流され、土台のみが
残されていた。**



**校舎の4階部分の壁は破損。
この高さまで津波がきたこ
とがわかる。**



向洋高校での語り部
熊谷樹さん

若い人の語り部が増えている。

④階上中学校



**階上中の卒業式が
3月22日に行われた。**

梶原 裕太 君 答辞



気仙沼階上中学校答辞

「苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きることが、これからの私たちの使命です。」は、私たちに、人としての在り方を教えてくださいました。

助け合って生きること！！

まさに、これからの日本のもっとも必要なことと感じます。

⑤いのちをつなぐ未来館



鶴住居（うのすまい）
この館の職員の方からお話をお聞きしました。



⑥フィールドワーク

**地域の保育所の園児等も一緒に避難。
始めに避難した海拔15メートルより
もっと上の海拔44メートルを
目指し避難。**

44メートルの高さ



⑦リーダー交流・学習会



他の学校とも意見を深めました。

⑧仙台市 奇跡の一本松

**復興のシンボルとなった。
モニュメントとして保存し今
でもこの海岸のシンボルとし
て、人々に勇気と希望と元気
を与えている。**



⑨仙台市 荒浜小学校



荒浜小学校（4階建て）付近
の住民は垂直避難のできるこ
の小学校に避難。

学校の2階まで浸水した。
2階部分のフェンスが津波の
威力で変形しています。



⑩荒浜地区住宅基礎跡



流された住宅の基礎だけが残っている。

⑩防災おおいた座談会

高校生、大学生の
合計12人で
防災について
意見を深めた。



今回の研修から学んだこと！

大塚

- ・ 災害に関する知識を持つことが大切
- ・ 防災訓練などの事前の準備を怠らない！

緒形

- ・ 今ある生きていることに感謝
- ・ 「逃げる」こそ最大の武器



これから私たちがしていくべきこと..

①基本知識を身につけていく
→防災マップ、防災アプリの確認

②積極的に避難訓練に参加
→行事の訓練から命のための訓練

③学んだことを後世に
→現地視察、被災者の話を聞く

④予想以上のものを想定する
→早めの避難を否定するのではなく讚える社会へ



大分防災アプリ



語り部の皆さん



ご清聴ありがとうございました。



復興を遂げた綺麗な町！！